

# 令和6年度 病害虫防除技術情報 第1号

令和6年4月1日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

## 麦類の病害対策について

令和6年産の麦類については、令和5年11月下旬から12月上旬における無降雨の影響等により、圃場によって生育状況が異なり出穂期に大きな違いが見られます。赤かび病は出穂後の1回目の防除適期に農薬散布を行い、その7日後に2回目の防除を実施しましょう。また、小麦黄斑病と大麦網斑病は、平年より発生が早く確認されていますので、赤かび病との同時防除を行ってください。

### 1 麦類の生育状況

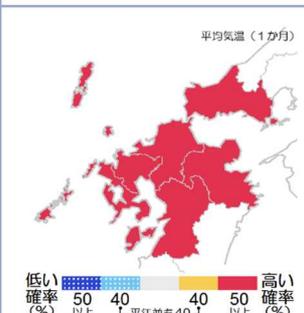
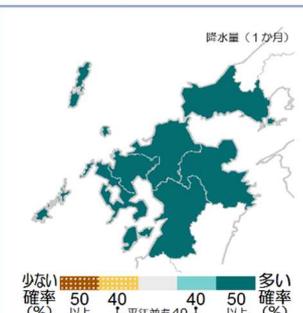
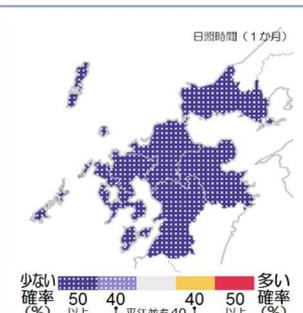
(1) 3月下旬に、二条大麦で既に出穂期を迎えている圃場や、小麦で出穂が始まっている圃場が確認されています。圃場によって出穂期が大きく異なる可能性がありますので、出穂期の確認を行きましょう。

### 2 今後の気象情報

(1) 3月21日に福岡管区气象台が発表した「九州北部地方1か月予報」(3月23日から4月22日まで)は以下のとおりとなっており、高温傾向で推移する可能性が高く、降水量も多いと予想されています。



福岡管区气象台のホームページ ([http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/109\\_00.html](http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/109_00.html)) より抜粋。

	平均気温 (1か月)	降水量 (1か月)	日照時間 (1か月)
九州北部地方 (山口県含む)	低10 並20 高70% 高い見込み	少10 並30 多60% 多い見込み	少50 並30 多20% 少ない見込み
数値は予想される出現確率 (%) です			

### 3 赤かび病

#### (1) 感染時期と防除適期

ア 小麦及び裸麦では「開花最盛期から 10 日間程度の間」が最も感染しやすく、二条大麦では「蒴が出始める時期」に感染しやすいため、この間に降雨が続き気温が高いと多発しやすくなります。今後の気象状況に注意してください。

イ 防除適期は以下の「防除上注意すべき事項」を参照してください。

#### (2) 防除上注意すべき事項

ア 出穂時期に注意し、防除適期を失しないようにする。

イ 小麦及び裸麦では、開花最盛期から 10 日後までが最も感染しやすい。そのため、開花最盛期とその 7～10 日後に 2 回薬剤散布を行う。なお、開花最盛期は、裸麦で出穂 5～7 日後、小麦で同 7～10 日後である。

ウ 二条大麦では、蒴殻抽出期（蒴の出始め）にあたる穂揃い約 10 日後（出穂 12～14 日後）に最も感染しやすいため、この時期とその 7 日後の 2 回薬剤散布を行う。

エ 開花最盛期や穂揃い期の判別は困難なため、出穂期（全茎の 40～50%が出穂した時期）を把握し、防除計画を立てる。

オ 防除適期が短いので、降雨が続く場合は合間を見て散布する。

カ 2 回目の防除適期を過ぎていても、感染しやすい条件に該当する圃場では 1 回目防除の 20 日後くらいまでに 2 回目防除を行えば防除効果が期待できる。

キ 主要薬剤の登録は表 1～3 を参照し、薬剤の収穫前使用日数には十分注意する。

表 1 麦類赤かび病対象薬剤（散布剤）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	1	トップジンMゾル	1,000～1,500倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	1	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍			
	3	チルト乳剤25	1,000～2,000倍	60～150L/10a	収穫3日前まで	
	3	シルバキュアフロアブル	2,000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	
	7	ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	50～150L/10a	収穫7日前まで	
麦類 (小麦を除く)	1	トップジンMゾル	1,500倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
		トップジンM水和剤	1,000～1,500倍		収穫30日前まで	
麦類	3	ワークアップフロアブル	2,000～3,000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	3	チルト乳剤25	1,000～2,000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回
	3	シルバキュアフロアブル	2,000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内

表2 麦類赤かび病対象薬剤（ブームスプレーヤー）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	1	トップジンM水和剤	250倍	25L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	3	シルバキュアフロアブル	500倍	25L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	250~500倍	25L/10a	収穫7日前まで	2回以内
麦類	3	ワークアップフロアブル	500~750倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内

表3 麦類赤かび病対象薬剤（無人航空機）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	1	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	3	チルト乳剤25	8倍	800mL/10a	収穫7日前まで	3回以内
	3	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	8~16倍	800mL/10a	収穫7日前まで	2回以内
麦類 (小麦を除く)	1	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
麦類	3	ワークアップフロアブル	10~24倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	3	チルト乳剤25	8倍	800mL/10a	収穫21日前まで	1回
	3	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	7	ミラビスフロアブル	8~16倍	800mL/10a	収穫14日前まで	2回以内

#### 4 小麦黄斑病

##### (1) 感染時期と防除適期

ア 前年の罹病残渣が伝染源となり、春先に下葉から症状が現れます。本年は平年より発生が早く確認されていますので、発生状況に十分注意してください。

イ 防除適期は以下の「防除上注意すべき事項」を参照してください。

##### (2) 防除上注意すべき事項

ア 通常、赤かび病との同時防除を行うが、発生が多い場合には早めの防除を行い、防除適期を失しないようにする。

イ 主要薬剤の登録は表4~6を参照し、薬剤の収穫前使用日数には十分注意する。

表4 小麦黄斑病対象薬剤（散布剤）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	3	チルト乳剤25	1,000倍	60~150L/10a	収穫3日前まで	3回以内
麦類	3	ワークアップフロアブル	2,000倍	60~150L/10a	収穫7日前まで	3回以内

表5 小麦黄斑病対象薬剤（ブームスプレーヤー）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
麦類	3	ワークアップフロアブル	500倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内

表6 小麦黄斑病対象薬剤（無人航空機）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
麦類	3	ワークアップフロアブル	10~16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内

## 5 大麦網斑病

### (1) 感染時期と防除適期

ア 本病は種子伝染するとともに、前年の罹病残渣が伝染源となり、春先に下葉から症状が現れます。本年は平年より発生が早く確認されていますので、発生状況に十分注意してください。

イ 防除適期は以下の「防除上注意すべき事項」を参照してください。

### (2) 防除上注意すべき事項

ア 通常、赤かび病との同時防除を行うが、発生が多い場合には早めの防除を行い、防除適期を失しないようにする。

イ 主要薬剤の登録は表7～9を参照し、薬剤の収穫前使用日数には十分注意する。

表7 大麦網斑病対象薬剤（散布剤）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
麦類	3	ワークアップフロアブル	2,000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	3回以内
大麦	3	テルト乳剤25	1,000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回
	3	シルバキュアフロアブル	2,000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内

表8 大麦網斑病対象薬剤（ブームスプレーヤー）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
麦類	3	ワークアップフロアブル	500倍	25L/10a	収穫7日前まで	3回以内

表9 大麦網斑病対象薬剤（無人航空機）

作物名	FRAC	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
麦類	3	ワークアップフロアブル	10～16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	3回以内

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 病害虫対策チーム

ホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

